

東京農工大学

【N026 東京農工大学】

	東京農工大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:521 第3年次:70） 大学院工学府（M:340 D:60） 大学院生物システム応用科学府（M:69 D:28）
沿革	<p>明治17（1884）年 農商務省蚕病試験場設置</p> <p>明治20（1887）年 蚕業試験場に改称</p> <p>明治29（1896）年 蚕業講習所設置</p> <p>明治32（1899）年 東京蚕業講習所に改称</p> <p>大正3（1914）年 東京高等蚕糸学校設置</p> <p>昭和19（1944）年 東京繊維専門学校に改称</p> <p>昭和24（1949）年 新制東京農工大学繊維学部設置</p> <p>昭和37（1962）年 繊維学部を工学部に改称</p> <p>昭和41（1966）年 大学院工学研究科修士課程設置</p> <p>平成元（1989）年 大学院工学研究科修士課程を工学研究科博士前期・後期課程に改組</p> <p>平成7（1995）年 大学院生物システム応用科学研究科博士前期・後期課程設置</p> <p>平成16（2004）年 大学院を改組し、大学院共生科学技術研究部（研究組織）及び大学院工学教育部、大学院生物システム応用科学教育部（教育組織）に再編</p> <p>平成17（2005）年 大学院技術経営研究科（専門職学位課程）設置</p> <p>平成18（2006）年 大学院共生科学技術研究部を大学院共生科学技術研究院に改称、大学院工学教育部、大学院生物システム応用科学教育部を工学府、大学院生物システム応用科学府に改称</p> <p>平成22（2010）年 大学院共生科学技術研究院を大学院工学研究院及び農学研究院に改組</p> <p>平成23（2011）年 大学院技術経営研究科を改組し、大学院工学府産業技術専攻へ再編</p>
設置目的等	<p>東京農工大学の前身である農商務省蚕病試験場は、生糸に関する養蚕業の育成を目指すため、明治17年に設立され、明治20年蚕業試験場に改称された。</p> <p>明治29年、蚕業講習所となり、明治32年東京蚕業講習所に改称され</p>

	<p>た。</p> <p>大正3年、東京蚕業講習所は、文部省管轄の実業専門学校東京高等蚕糸学校となり、昭和19年東京繊維専門学校と改称された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、東京繊維専門学校は、東京農工大学繊維学部として承継された。</p> <p>昭和37年、工業社会の繊維産業が生糸、絹から合成繊維へと移り変わるのに合わせて、工学的色彩を強めるとともに、時代の要請に即応した科学技術者の養成を行うことを目的に繊維学部を改称し、工学部が設置された。</p> <p>昭和41年、高度経済成長のなか、高度な技術を持つ学生の需要が高まり、大学院工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成元年、自立して研究開発を行える高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を持ち、課程修了後は進んで産業界に入り、高度技術社会の建設に積極的に参加する人材を育成することを目的に、大学院工学研究科修士課程を改組し、大学院工学研究科博士課程が設置された。</p> <p>平成7年、農学・工学を融合して新しい科学技術を創造し、高い研究能力と豊かな学識を身につけ、幅広い視野を持ち高度な応用的専門知識と技術を有する人材の養成を行うことを目的に大学院生物システム応用科学研究科博士前期・後期課程が設置された。</p> <p>平成16年、大学院における教育と研究に重点をおいた大学院基軸大学として、教育研究の推進を通じて人類の生存と繁栄及び美しい地球の持続に貢献することを目的に大学院を改組し、大学院工学教育部（現工学府）、大学院生物システム応用科学教育部（現生物システム応用科学府）に再編した。</p> <p>平成17年、技術リスクの最小化に配慮しながら先端技術を活用・展開してビジネスの創出ができる人材の育成を目的に大学院技術経営研究科専門職学位課程（現工学府産業技術専攻）を設置した。</p> <p>平成22年、全学の研究組織である大学院共生科学技術研究院を改組し、大学院工学研究院を設置した。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>東京農工大学においては、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを理念とし、教育研究及び社会貢献に取り組んできたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 社会の変化に柔軟に対応し、科学技術の面から人類の豊かな生活や福祉に貢献し、それを牽引する人材の輩出を目指した教育を展開</p>

し、教養豊かで国際社会で指導的な役割を担える高度な技術者等の育成の役割を果たすとともに、高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。

- 先端研究開発志向の人材育成共同プログラム(長期インターンシップ)などの特色ある教育改革を進めてきた実績を生かし、国際的水準を踏まえた教育改革を進める。大学院の教育体制を魅力的に変革し、博士前期課程への入学希望者が多い状況を維持し、更に博士後期課程に進学する学生の支援を充実させ、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- 工学、化学、材料科学の分野における高い研究実績を生かし、先端的な研究を総合的に推進する。特に、研究実績の高い、機能イオン液体、スマートモビリティ、次世代キャパシタなど世界水準の先端的な研究を先導的に推進し、我が国の工学の発展に寄与する。
- 基礎研究と産学連携を両輪で推進することにより実現している受託研究・共同研究の受入れや特許取得数、論文数の伸び率における高い実績を生かし、今後とも我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進するとともに、従来からの強力な産学連携体制を維持・発展させ、イノベーションを生み出す。
- 企業等の研究者からの高度な学習需要に応え、大学院博士後期課程での教育を整備し、社会人の博士学位取得を支援してきた。今後も社会人の学び直しを支援する教育体制を一段と充実させる。
- テニユアトラック制度を積極的に導入することにより多くの若手教員を育成して論文の量・質を向上させてきた実績を生かし、これを更に加速することで若手教員の活性化を強力に推進し、研究力と人材育成機能を強化する。
- 国立大学の工学部において女子学生の志願者割合はトップクラスであり、在籍女子学生数も全国平均を大きく上回っている。女子学生や女性研究者のために学内保育所の設置等による環境整備を実施しており、また女子学生を対象とするキャリアパス講座の実施や学生によるメンター相談窓口の設置により、女性研究者の裾野拡大を進めている。さらに、次世代育成のために女子中高生を対象としたサマースクールを毎年開催している。

今後も男女共学の中で理系女子教育を充実させ、引き続き大学院でも理系女子教育を推進するとともに、いち早く実施した女性研究者支援制度を拡充し理系女性研究者のロールモデルを示しつつ、グローバルに活躍できる女性研究者の育成に取り組む。

- 特に法人化後を中心としてこれまで不断の改革により研究力の強化や人材養成に取り組んできた実績を生かし、今後も更なる組織改革や教員の人事制度改革を図り、研究力の向上とグローバルイノベーション人材の養成に寄与する。